

「転勤問題」を考える②

～今回会社が検討している異動の目的は？～

今回会社が突如として検討し始めた指導運転士や経験者を中心とした人事異動について組合への説明は全くなく、会社は団体交渉の議論において「通常転勤である」「スキルアップと人事交流のため」「組合の加入の有無による差別はありえないが転勤はやっていく」という認識です。しかし職場では管理者から転勤をちらつかせた新たな不当労働行為が発生しています。その具体的な言動には共通性があり、「転勤」の真の目的は労働組合の弱体化を通じた更なる効率化施策の推進が組織的に目指されていることに他なりません。

JRバス職場の不当労働行為シリーズ②



新たな不当労働行為
不当転勤を証明する

労働人口減少のなかで社会的に見た転勤は？

NHK「クロスアップ現代」での特集



人材確保の視点からも転勤の在り方を考えよう!

不当労働行為は絶対許さない！
精神状態がハンドルに直結する運転士に「安全」を語る裏では不当労働行為！
「お客様の信頼を」と言う資格はない！

ある大手損害保険会社がこの春から転勤を原則廃止する。転勤がある企業には学生が集まりにくく、社員の離職も進むという危機的状況。最新の調査では、育児や介護を抱える現役世代の8割が転勤を家族への負担が重いと考え、新卒者の7割が全国転勤を行わない地域限定社員を希望している。人手不足が深刻化するいま、働き手や家族は何を選択し、企業はどう対応しようとしているのか、これからの働き方を考える時代に入っている。